





鳥をいかにてあむなむしりしものごと
 のいかにてしむるにあむる人にもなりけり
 ともいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり

かしてはあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり
 のいかにあむる人にもなりけり

1017

11

杖のゆへまひのよめてくれば業をいかに
のせけんゆふ橋とてあらしのあしこはり
時の橋らん花らんをいさしのちんせえ
すう又のなをせんもせんさくらさうり
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん

あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん
あへんくもらんせん花れせんのかん

るしゆりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか

らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか
らうりてはあめりかへはあつたか

古今和歌集卷第一
春哥上

あうとくはあいらひの日はあ

あふえき

年の内ふまはあいらひの日はあ
あうとくはあいらひの日はあ

紀書之

あうとくはあいらひの日はあ

あうとくはあいらひの日はあ

あうとくはあいらひの日はあ

あうとくはあいらひの日はあ

あうとくはあいらひの日はあ

あうとくはあいらひの日はあ

梅 *umeboshi* *umeboshi*
かき *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi*

umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*

umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*

よの *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
は *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*

あ *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
の *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*

umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*
umeboshi *umeboshi* *umeboshi* *umeboshi*

むのつと月のたのびのふんへしてとぎんをきんか

大に千里

きりきり物いぬきいよきつととれつあは

五系栋梁

まふとたてふとふとふとふとふとふとふと

新しらす

新しらす

みくらくあつとあつとあつとあつとあつとあつと

まりせにけいなるりなるりなるりなるりなるり

まらせにけいなるりなるりなるりなるりなるり

ほふまのたのびのふんへしてとぎんをきんか

接りてふとふとふとふとふとふとふとふと

仁和のたのびのふんへしてとぎんをきんか

新しらす

まらあまのたのびのふんへしてとぎんをきんか

新しらす

新しらす

まらあまのたのびのふんへしてとぎんをきんか

新しらす

新しらす

まらあまのたのびのふんへしてとぎんをきんか

新しらす

新しらす

まらあまのたのびのふんへしてとぎんをきんか

新しらす

新しらす

我世に衣もぬきて
柳の糸もわらうと
西大寺のやうの柳とあり

傍にやむね

おと家系よりぬき
折しらす

百あちまのしんご
ををぬきぬきぬき
かりのこゑとやめて
ちらす

長くはるくもぬき
折しらす

折つと神うらぬ
ちらす

ちらすとわらう
折しらす

ちらすとわらう
折しらす

ちらすとわらう
折しらす

天の御魂を以て入梅の候に候
くぐぬかしとあらん

しよあひ

しよあひ

梅は白くもくらくぬき
月夜は梅の影とやとらぬらん

おのれ

おのれ

月夜は梅の影とやとらぬらん
この梅は影の心とあらぬらん

五月の梅は影の心とあらぬらん
神樂は梅の影とやとらぬらん

おのれは梅の影とやとらぬらん
おのれは梅の影とやとらぬらん

おのれは梅の影とやとらぬらん
おのれは梅の影とやとらぬらん

おのれ

人に梅の影とやとらぬらん
水の影とやとらぬらん

おのれ

五月の梅は影の心とあらぬらん
おのれは梅の影とやとらぬらん

おのれ

五月の梅は影の心とあらぬらん
おのれは梅の影とやとらぬらん

しんくす

あつちのついでにうらやまをいふに

素性は

あつちのついでにうらやまをいふに

あつち

あつち

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつち

あつちのついでにうらやまをいふに

あつち

あつち

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつち

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつち

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

あつちのついでにうらやまをいふに

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

見てもいふはこゝろは橋をたふして又つた

あつちんけいひふまの梅さうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん

あつちんけいひふまの梅さうしあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん

古今和歌集巻第三
去平下

あつちんけいひふまの梅さうしあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん

あつちんけいひふまの梅さうしあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん
梅のさうしあつちんてあつちん

そうくは神 西地

梅らしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり

花らしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神

花らしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神
さうくは神

花らしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神
さうくは神

このさうくは神

去るあふくは梅むらりか
あらしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神

梅のむのらりゆけりとてよよゆけり

そしとめて去のり出さるぬるに梅むらりか
あらしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神

梅のむのらりゆけりとてよよゆけり

梅らしき花のいもあはれしを海つゝあそぶよ
梅のむのらりゆけりとてよよゆけり
うせいほ神

梅のむのらりゆけりとてよよゆけり

花のつぼみはさかすか
あはれなる人ぞ花を
かへりて

昔のつぼみはさかすか
あはれなる人ぞ花を
かへりて

典作治子御

あはれなる人ぞ花を
かへりて

若菜後

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

あはれなる人ぞ花を
かへりて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

いふはらに地獄の火をさかす人の神のたはむ
りのるに月をいふはらにのりてくまのま
ひにまをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま

いふはらに地獄の火をさかす人の神のたはむ
りのるに月をいふはらにのりてくまのま
ひにまをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま

いふはらに地獄の火をさかす人の神のたはむ
りのるに月をいふはらにのりてくまのま
ひにまをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま
まをたふらふはらにのりてくまのま

可き... 卯の... 世... 鳴...
道... 信...
... 鳴...
... 鳴...

... 鳴...
隣... 鳴...
ハ... 鳴...

... 鳴...
... 鳴...
... 鳴...

古今和歌集卷中

秋... 鳴...

秋... 鳴...
... 鳴...
... 鳴...

... 鳴...
... 鳴...
... 鳴...

... 鳴...
... 鳴...
... 鳴...

久松の天のり糸の海をえんまよりかからうとてよ
天のり糸と揺らぐを七つちの松をいふ
こいしてまゝと敷天の身よりまゝのまゝ
寛政の町まゝのよらんまゝのまゝ
いふまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
いふまゝ

天の海をえんまのり糸の海をえんまよりかからうとてよ
天のり糸と揺らぐを七つちの松をいふ

なつとんちそつ 元七九年のまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

七つちのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

おのふれをせしむるはつらふらふらに
独り座すもなほおのれはつらふらに
こゝろをなほおのれはつらふらに
こゝろをなほおのれはつらふらに
おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに
おのれはつらふらに

おのれはつらふらに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋のよきついでに

秋のよきついでにふきかきしついでに

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
そはのみのこのよのうたのあり

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
みおあはるは

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
信じるをぬ

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
よたこころこころこころこころ

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

秋の夜はとほほおほおほとやむとて
あつた

おきふつらそらうおれらわらわらとねとふさうるれ

年こいね

ふのうさふのうさふのうさふのうさふのうさふのうさふのうさ

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきま

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうりまうり

おきま

七

未收は

しのむまこ、まゆんきさきく、まゆんのかきさきしこ

編きついにいれましとまゆん、まゆんのかきさきしこ

くまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

月まゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

仁おのみう、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

いつれまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

のおまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

まゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

古今和歌集をよむ

秋介下

こがゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

吹うにまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

まゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

妹のまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

紀より

のまゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

まゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

まゆん、まゆんのかきさきしこ、まゆんのかきさきしこ

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

おのれのまゝにまゐりておのれをば
まのまゝにまゐりておのれをば

Handwritten text in cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text, possibly a sub-header or section marker.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a sub-header or section marker.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a sub-header or section marker.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a sub-header or section marker.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a sub-header or section marker.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a page number or marker.

Handwritten text, possibly a page number or marker.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Small handwritten note or signature.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Small handwritten note or signature.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Small handwritten note or signature.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

〆回し杖のりしむるはあやうきや
りぞとせぬは回らばこそなる
まろの国をさうらひの事
わいしは待つにやとせむ
きりにならむ

ゆき

海沿りの道に水はあふとせむ
杖のりしむるはあやうきや
りぞとせぬは回らばこそなる
まろの国をさうらひの事
わいしは待つにやとせむ
きりにならむ

〆回し杖のりしむるはあやうきや

古く和らる菓子を分ち
お新

都一ら寸

一三三寸

五回一後より一神の日何女の由よそは
をりてくくく一とあり

源宗平一おり

心算の事おのりて増かちて
そり一ら寸

たをい月の老一信をわらむ
夕をいれおのりてけい
と一りらるとい海をい
海をいれおのりてけい

この山は山々ありて其の山の峰々の水は山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
我々の山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

紀世山々

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

紀世山々

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

紀世山々

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

紀世山々

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

紀世山々

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて
あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

あつて山々ありて山々ありて山々ありて山々ありて

おののふりていかにくさるる

ついでに

をこころにあらぬとていかにくさるる
大木のいかにくさるる
海はくさるる

あはれ

おののふりていかにくさるる

ついでに

あはれ

おののふりていかにくさるる
おののふりていかにくさるる
おののふりていかにくさるる
おののふりていかにくさるる

おののふりていかにくさるる

あはれ

おののふりていかにくさるる
おののふりていかにくさるる

あはれ

おののふりていかにくさるる

おののふりていかにくさるる

あはれ

おののふりていかにくさるる
おののふりていかにくさるる

おののふりていかにくさるる

あはれ

おののふりていかにくさるる

おののふりていかにくさるる

あはれ

さういふことある
おまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に

さういふことある
おまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に

さういふことある
おまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に

さういふことある
おまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に

おまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に
あまの終はあまの終に

おまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

あまの終はあまの終に

くまのきりぎりすのこゝろめつしきまゝかひりく

つらり

まづ神のこゝろをんはがふまゝし色の板とてあつて
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

保まらうのらゝをんはがふまゝし色の板とてあつて
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

まゝのこゝろをんはがふまゝし色の板とてあつて
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

いふは極のふのらゝをんはがふまゝし色の板とてあつて
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

佐よらう月只せりて死とてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

まゝのこゝろをんはがふまゝし色の板とてあつて
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

あふあつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

まろ

あふあつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき
つりのゆかりまゝしつらこゝろに甲がたみあ
あつてくまのきりぎりすのこゝろめつしき

つる巻さしをばはききりてあらゆる巻をさ
はしりて人まわりのあはれんころをとり
しりてあはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん

うきいはい

夏とあはれんころをとりてあはれん
世ののこころをとりてあはれん
しりてあはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん

あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん

秋

後のえれねと秋月吹うにふたれうかむ川に
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん

冬

ゆきあはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん
あはれんころをとりてあはれん

古今和歌集を牙八

歌別

身取の手印

まのいしあはれの花よさる 梓 三つはまらふん

身取の手印

さるかく杖の蔭糸おしらを 藤 けり人さうくさゆん

伊さきさ井のこまの別る人さる 藤 けり人さうくさゆん

よのちらうらうらのおまよふまよふまよふ けり

由よしののしある

そららあゆみのさしあゆみさすかむさいせはあむ

まこころのこころあゆみさるまよふまよふ

のすまよふまよふまよふまよふまよふまよふ

しきりしきり

しきのちしき

けいふのちあふしこちんよまおし神のち
こしすしりけり人よ清くつりしきり
あつちのちあふしこちんよまおし神のち
人のちあふしこちんよまおし神のち

けいふのち

おむしきりしきりしきりしきりしきり
あふしこちんよまおし神のち
あふしこちんよまおし神のち
あふしこちんよまおし神のち

あふしこちんよまおし神のち

あふしこちん

あふしこちんよまおし神のち

あふしこちん

あふしこちんよまおし神のち

あふしこちん

あふしこちんよまおし神のち

あふしこちん

あふしこちんよまおし神のち

あふしこちん

もしもつりさき

巻

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、
あつたふんをいふは、

あつたふん

あゝのまへにうらなひしつらかり
しるのまへにうらなひしつらかり
しるのまへにうらなひしつらかり

いふにうらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

うらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

うらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

うらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

うらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

うらなひしつらかり
うらなひしつらかり
うらなひしつらかり

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

zu sein

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen

Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein. Es ist das eine gewisse Anzahl von Menschen
zu sein.

五

かたはつゝのりかゝりけりゆかゝりたか
いかにいかにのりかゝりけりゆかゝりたか
てはつゝのりかゝりけりゆかゝりたか

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人
おまのたゝかゝりぬき人かゝりぬき人かゝりぬき人

はるかにふる雪のふりよるをよみとせしめしとてはわらん
とせしめし

六
ハ

古今和歌集巻第九

新羅詩

ゆきふりよるをよみとせしめしとてはわらん

女信仲麻呂

美のあつらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
いやに昔あつらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
よつらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
えらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
つらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
よつらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
えらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん
つらふ心は春のけしきとせしめしとてはわらん

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous page's content. The ink is dark and the script is consistent.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a separate line or section of the document.

Handwritten text in a cursive script, the final section of text on this page. The script is fluid and characteristic of the period.

Small handwritten mark or characters at the bottom left of the page.

Small handwritten mark or characters at the bottom right of the page.

古今和名集卷之十
物名

うらうし

後取敏り印

わうしうのまにをうらうしうしうまことわいをうら

うらうし

くしうしうのまにをうらうしうしうまことわいをうら

うらうし

うらうし

作のうらうしをうらうしうしうまことわいをうら

うらうし

うらうし

うらうしをうらうしうしうまことわいをうら

うらうし

うらうし

わいをうらうしをうらうしうしうまことわいをうら

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged paper, with some ink bleed-through visible from the reverse side. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text on the right page, top section.

Handwritten text on the right page, middle section.

Handwritten text on the right page, lower section.

Handwritten text on the right page, bottom section.

Handwritten text on the right page, very bottom section.

Handwritten text on the left page, top section.

Handwritten text on the left page, middle section.

Handwritten text on the left page, lower section.

Handwritten text on the left page, bottom section.

Handwritten text on the left page, very bottom section.

Handwritten text on the left page, bottom-most section.

かゝるに

たゞも

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

今をあらはれむとておほくもあつらひ

かゝるに

ふたりの

さあめをいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

かゝるに

さあめを

たのみにいふはよむおほくともくともあつらひ

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Dear

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or diary entry.

My

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or diary entry.

Yours

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or diary entry.

Love

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or diary entry.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or date.

古今和歌集卷第十一

鳥羽一

新ららす

しんららす

町をうつりよめあはれあはれぬ

あはれぬ

あはれあはれの白あふらふ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれのあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

三つに集るるをいふは、
いふは、

昔は、
ちよとのしよ、
さらさら車のト、
おのふかん、

と、
と、

と、
と、

と、
の、
の、

と、
と、

と、
と、

と、

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and covers most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is densely packed and covers most of the page.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is densely packed and written in dark ink on aged, yellowed paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect. The text is arranged in approximately 20 lines per page, with some lines starting with larger, possibly initial letters. The overall appearance is that of a well-used, historical record or account.

古今和歌集巻中十一

恋三十一

弘一 和歌

小井小所

思つぬもりのやうかかづらんをこころせむらふ
うらみはあはれぬ人こそよけれとて
かこめてあはれむらひのあはれとて

よせむらひ

秋深みぬらひもたつとほなれぬとてむらひ
とらふにたつとほなれぬとてむらひ
はゆふたつとほなれぬとてむらひ
よせむらひ

あきのむらひ

いさむ

独りあふにけのてしむるをよそよそ

あつた

人いふにうらふはなほにわがまは

あつた

はなはたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

あつたのまはなほにわがまは

あつた

Handwritten text in Arabic script, likely a list or account. The text is written in a cursive style and is organized into several lines. Some lines begin with small, possibly decorative or identifying marks. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is organized into several lines, with some lines starting with small marks. The script is consistent with the previous page, showing a cursive style.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the upper portion of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the middle portion of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the lower portion of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the upper portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the middle portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the lower portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the upper portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the lower portion of the left page.

部一から

部

東部の別とがに我まのくも... 部一から

部一から

町を渡ると... 部一から

部一から... 部一から

部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から

部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から... 部一から

部一から

部一から

あはれはまゝにさうじくはるるおのちよのちよのちよ

とくしんりや

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

おのちよのちよ

おのちよのちよのちよのちよのちよのちよのちよ

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

いそあつらんちん

いそあつらんちんこのうなうけいさんせん

古今和歌集卷第十四

恋行四

恋一らさ

恋一人

恋のあまのほたるのこゝろを
恋のこゝろを恋のこゝろを恋のこゝろを

恋のこゝろ

恋のこゝろを恋のこゝろを恋のこゝろを

恋のこゝろ

恋のこゝろを恋のこゝろを恋のこゝろを

恋のこゝろ

恋のこゝろを恋のこゝろを恋のこゝろを

恋のこゝろ

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

此の書は、
一

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page area, with some lines starting with larger, possibly decorative or initial letters. The text is arranged in approximately 10-12 lines per page, with some lines being shorter than others. The overall appearance is that of a well-used, historical record or account.

十一日

五

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is organized into several lines. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting. The text is written on both pages of the open book, with some lines continuing from the left page to the right page. The ink is dark, and the paper shows signs of wear and discoloration.

此の文は...
大徳を養ふの...
よき...
...

丘はた大徳

此の文は...
...
...

...

此の文は...
...

...

此の文は...
...

...

此の文は...
...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines across the page, with some lines starting with a large initial letter. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines across the page, with some lines starting with a large initial letter. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたて

あつたて

あつては...
あつては...
あつては...

らるる...
らるる...
らるる...

あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつたてのうらなひ

わづらひたつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

舞鳥のあつたはつと一ちか

いひ

舞鳥のあつたはつと一ちか
舞鳥のあつたはつと一ちか

はとこ批のり

はとこ批のり
はとこ批のり

た今和紙のホを中十八

報章ト

報章ト

しんしん

世中い何ち考かあ花を川流の側をけり何、か
くよーとあーととすをたひくあつたはつと一ちか

小舞たはつと一ちか

あつたはつと一ちか
あつたはつと一ちか

あつたはつと一ちか
あつたはつと一ちか

あつたはつと一ちか
あつたはつと一ちか

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

平一

うらなひのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

平一

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

伊路

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

平一

あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり
あつたてのうらなひを
しるすにたゞしきことあり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dark ink on aged paper and is organized into several lines. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the previous page. The lines are closely spaced, and the ink shows some signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry in the record. The text is written in a consistent hand throughout the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is highly legible despite the age of the document.

Handwritten text in a cursive script, likely the final part of the entry or a concluding statement. The text is written in a clear, consistent hand.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is dense and fills most of the page.

たうに... 返報... せあ...
たうに... 返報... せあ...
たうに... 返報... せあ...

あなをわります

おのれ... 宛平...
おのれ... 宛平...
おのれ... 宛平...

大に...

あ... 人...
あ... 人...
あ... 人...

あなをわります

あ... 人...
あ... 人...
あ... 人...

あな

Handwritten text in a cursive script, likely a title or header.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a location.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

古今和歌集卷第二十

大守取御方

ゆかみしのうき

新しきものもあはれなるも年とらばたのしき

りかたにいらぬもあはれなるもあはれ

あはれなるもの

あはれなるものもあはれなるものもあはれ

あはれなる

あはれなるものもあはれなるものもあはれ

あはれなる

水もあはれなるものもあはれなるものもあはれ

あはれなる

あはれなる

あはれなる

必如者三十一字誦今及秋之仍也之後
却天神之孫海童之女其不以秋通情
者及人代此凡大知長秋短秋旋及混
本之就難辨非一源流也盤盤如柳色之
相生自寸而之煩深天之彼起如一活之
居至心即改謂之什哉

與入也去但見上古秋亦在古質之強求
為身日之厥後為教戒之器古
天子每良辰養蒙限侍片預宴造者秋和
秋若臣之此由斯可見賢愚之性也
分所以隨氏之秋得士之才也自大陳會

子之初作仍賦初人才子慕風德磨枝皮
漢家之字化我日域之俗民業一政和秋
湯襄然於有先師柳本大夫其言振邪妙
之思獨出古今之間有以也奈人若並和
秋仙也子餘業和秋若綿之不絕及彼時
震凌德人莫奈德浮河之與點流泉滿
實以爲花孤氣紅有紅色之亦以此為
犯多之使乞舍之容以此為活計之媒故
半出婦人之右即左文吏之最近代存古
凡若終二三人然長短不同論以可并花
山傍心在切秋神然之詞花而少實如思
畫如女從動人脈在系中暗之秋之時有

年之身勤為二十卷名曰古今和歌集臣
未洞少長花之類名竊秋夜之長況外之
思內信之如通慈才藝之拙通過和歌之
中與以未若乃之再昌味乎人死既沒和
秋不互斯於千內延喜五年歲次乙丑四
月十八日臣實之等謹序

享保二丁年中其書

三月之源高乃



安永九年庚子初春再刻

善洛

植村錦山堂藏



田島大元全集

正一

田島大元